

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 22 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380405

研究課題名(和文)大震災に対するリスクマネジメント 家計における保険の役割

研究課題名(英文)Risk Management Against Great Earthquakes -The Role of Insurance in Households

研究代表者

浅井 義裕 (Asai, Yoshihiro)

明治大学・商学部・准教授

研究者番号：60433645

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：東日本大震災以降、家計の震災に対する備え、「リスクマネジメント」に注目が集まっている。しかしながら、どのような特徴を家計が耐震補強を実施しているのか、また、どのような家計が地震保険を購入しているのかについて、データを使って明らかにしている研究は決して多くはない。そこで、本研究では、「リスクプレミアム」、「リスク回避度」、「曖昧性の回避」、そして「金融知識」などの観点から、日本の家計の地震に対する備えの傾向を明らかにしようとしてきた。また、家計の地震への備えを増やすために、有効な政策を検討する際の資料を提供しようと試みてきた。

研究成果の概要(英文)：Attention is particularly focused on risk management against large earthquake after the Great East Japan Earthquake. However, previous researches have not clarified the factors affecting risk management activities such as seismic strengthening and earthquake insurance purchase. In this projects, we conducted a survey of risk management and earthquake insurance to Japanese households. We have tried to explain seismic strengthening and earthquake insurance purchase by employing traditional economics (risk aversion) and behavioral economics (ambiguity aversion). We provide the evidence that financial knowledge affects insurance purchase in this research projects. Also, we try to provide implications for policy makers and insurers on household's risk management against catastrophe.

研究分野：保険論、金融論

キーワード：地震保険 家計 アンケート調査 行動経済学 金融知識

1. 研究開始当初の背景

本研究プロジェクトの学術的な背景は、次の3つの点にまとめられる。

(1) 東日本大震災以降、以前にもまして、家計の震災に対する備えである、保険や耐震補強などの「リスクマネジメント」に注目が集まっている。しかしながら、地震と保険に関する研究は限られていた。

(2) 地震と保険に関する研究も、地震と保険会社の企業価値がどのように関係しているのかなど、地震保険と、保険の供給側である保険会社の関係に注目したものがほとんどで、地震と保険を需要側から研究した研究はほとんど存在しなかった。

(3) 地震保険に関する研究で、データを用いた分析は、Naoi, Michio, Takuya Ishino and Miki Seko (2012) “Earthquake Risk in Japan: Consumers’ Risk Mitigation Responses After the Great East Japan Earthquake, *Journal of Economic Issues* 46(2), pp.519-530 や、申請者の過去のプロジェクトの一部(浅井義裕 若手研究(B)「保険需要構造の分析 ファイナンス理論の実証的検証」課題番号23730303)などに限られていて、直面しているリスクに比べて、日本における家計の地震リスクマネジメントの実証的研究は十分ではない実情があった。そこで、本研究プロジェクトでは、家計向けのアンケート調査を中心に据えて、分析を行おうと試みてきた。

2. 研究の目的

本研究プロジェクトの目的は、次の3つの点にまとめられる。

(1) 地震保険の購入や耐震補強の実施にプラスの影響を与える要因を明らかにしようとする。つまり、家計の地震に対するリスクマネジメントを促進するような要因を明らかにする。また、どのような政策が、家計のリスクマネジメントを進める上で有効なのかについて、議論をする際の資料を提示する。

(2) 地震保険の購入を促進する要因だけではなく、地震保険を解約する要因についても明らかにする。

(3) 地震保険の購入も、家計の金融行動であり、証券投資などと同様に、金融知識の水準に影響される可能性がある。そこで、家計の金融知識の水準が、地震保険の購入や耐震補強の実施に影響を与えるかどうかを明らかにする。

3. 研究の方法

研究の方法としては、アンケート調査を採用した。類似する研究、申請者が以前に実施した予備調査や中小企業向けの地震保険の調査を参考にしながら、アンケート調査票の作成を行った。

まず、伝統的な経済学に基づく「リスク回避度」、行動経済学に基づく「曖昧性の回避」などの観点から、家計のリスク管理を明らかにしようとして試みている。

また、先行研究をサーベイする過程で、家計の金融行動を分析する際には、「金融知識」の影響が重要であることが分かってきた。そこで、本研究プロジェクトでは、金融知識も考慮した分析を行う。

4. 研究成果

本研究プロジェクトは、(1)「大震災と家計の保険需要に関するアンケート」(2016年12月実施)の1000世帯(委託調査によって実施)から得られた結果と、(2)大学生に対する金融知識のアンケート574名(2015年11月実施)で得られた結果から成り立っている。以下では、それぞれのアンケートの結果の一部を紹介する。

(1)「大震災と家計の保険需要に関するアンケート」の主な結果

「一戸建てにお住まいの方にお伺いします。あなたの家の「建物」と周りの家の「建物」の距離について、最も距離が近い家とのおおよその距離は、次のうちどれですか。

(たとえば、境界線からあなたの家が1m、隣の家も1m離れていれば2mと考えます)」

1. 0cm以上50cm未満(6.3%) 2. 50cm以上1m未満(12.1%) 3. 1m以上1m50cm未満(13.1%) 4. 1m50cm以上2m未満(13.1%) 5. 2m以上2m50cm未満(11.7%) 6. 2m50cm以上3m未満(6.1%) 7. 3m以上(24.6%) 8. わからない(13.1%)

回答数 521世帯

住宅ローンの残額があるとお答えの方にお伺いします。住宅ローンの完済までの残り年数はおおよそどれだけですか。

1. 1年未満(0.5%) 2. 1年以上5年未満(8.7%) 3. 5年以上10年未満(20.2%) 4. 10年以上15年未満(19.2%) 5. 15年以上20年未満(13.9%) 6. 20年以上25年未満(15.4%) 7. 25年以上30年未満(8.7%) 8. 30年以上35年未満(11.5%) 9. 35年以上50年未満(1.9%) 10. 50年以上(0.0%)

回答数 208世帯

建物の地震保険(もしくは、建物更生共済・自然災害保障付火災共済など)に加入していますか。

1. 加入している(59.9%) 2. 過去に加入していたが、現在は加入していない(3.1%) 3. 一度も加入したことがない(28.1%) 4. わからない(8.8%)

回答数 704世帯

家財の地震保険(もしくは、建物更生共済・自然災害保障付火災共済など)に加入していますか。

1. 加入している(52.3%) 2. 過去に加入

していたが、現在は加入していない(3.8%)
3.一度も加入したことがない(31.8%) 4.
わからない(12.1%)
回答数 704 世帯

建物もしくは家財の地震保険に加入して
いるとお答えの方にお伺いします。現在の住
居で、地震保険に加入したのは、次のうちの
タイミングですか。

1.現在の住居への入居(賃貸を含む)時点
(76.7%) 2.結婚したのを機に、新たに加
入した(1.9%) 3.子供が生まれたのを機
に、新たに加入した(1.7%) 4.阪神大震
災の被害を見て、新たに加入した(7.4%)
5.東日本大震災の被害を見て、新たに加入
した(5.8%) 6.その他の地震の被害を見
て、新たに加入した(3.1%) 7.その他(3.5%)
回答数 484 世帯

地震保険料(建物・家財の合計)を年間お
よそいくら支払っていますか。

1.1万円未満(27.1%) 2.1万円以上2
万円未満(23.8%) 3.2万円以上3万円未
満(13.6%) 4.3万円以上4万円未満(8.7%)
5.4万円以上5万円未満(5.4%) 6.5万
円以上6万円未満(6.8%) 7.6万円以上7
万円未満(2.7%) 8.7万円以上8万円未満
(1.0%) 9.8万円以上9万円未満(1.2%)
10.9万円以上10万円未満(2.3%) 11.
10万円以上11万円未満(2.7%) 12.11
万円以上12万円未満(0.6%) 13.12万円
以上13万円未満(1.0%) 14.13万円以上
14万円未満(0.8%) 15.14万円以上15
万円未満(0.6%) 16.15万円以上16万円
未満(0.2%) 17.16万円以上17万円未満
(0.0%) 18.17万円以上18万円未満
(0.0%) 19.18万円以上(1.4%)
回答数 484 世帯

建物の地震保険に加入していないとお答
えの方にお伺いします。

1.保険料が高い(33.8%) 2.耐震補強を
したから(1.5%) 3.耐震性が十分だと思
うから(10.8%) 4.代理店から勧められな
かった(5.6%) 5.地震保険のことがよく
わからない(11.8%) 6.受けとれる保険金
が少ない(14.4%) 7.震災の場合は、様々
な支援策が期待できるから(3.6%) 8.周
りに入っている人がいない(1.0%) 9.真
剣に考えたことはない(17.4%)
回答数 195 世帯

建物、もしくは家財の地震保険に過去に加
入していたが、現在は加入していないとお答
えの方にお伺いします。

1.住宅ローンを完済した(9.1%) 2.引
越えをした(22.7%) 3.地震保険料が高
くなったから(20.5%) 4.生活が苦しくな
ったから(15.9%) 5.保障内容が思ってい
たものと違っていた(18.2%) 6.その他

(13.6%)
回答数 44 世帯

以上は、アンケートの主要な結果であり、地
震保険の購入や耐震補強の実施に関する回
帰分析の結果ではない。

しかしながら、単純集計の結果からも、い
くつかのことが確認できる。

第1に、一度地震保険を購入した家計は、
その後、地震保険を解約する割合が低いこ
が確認できる(回答数44世帯)。

第2に、隣家との距離が1メートル未満と
回答している家計が、20%弱存在している。
密集地帯の住居といえそうである。地震を原
因に発生した火災は、火災保険の支払い対象
ではないため、地震保険の加入が特に必要と
なる世帯であるともいえるだろう。

第3に、地震保険料の支払い(年間)は、
2万円未満と回答した家計がおよそ半数を占
めている。

(2)「金融知識に対するアンケート調査」
の主な結果

本研究プロジェクトからは、以下のことが明
らかになった。

(金融知識について)

「自分が育った世帯の所得を知っている」と
回答した大学生ほど、金融知識の水準が高い
ことが分かった。また、女性の方が、金融知
識の水準が有意に低いことが分かった。

(保険知識について)

金融への関心が低い大学生ほど保険知識が
少ないこと、自分の育った世帯の所得を知っ
ている大学生ほど保険知識が多いこと、大学
での成績がよい学生ほど保険知識が多いこ
と、大学間で学生の保険知識に差があるこ
とが明らかになった。

5.主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文](計7件)

1. 浅井義裕 (2015) 「中小企業の保険需要
とリスクマネジメント - アンケート調査
の集計結果 -」 『明大商学論叢』 査読
有 第97巻 第4号 pp.45-82.
2. 浅井義裕 (2015) 「中小企業金融におけ
る生命保険解約の実証分析」 『生命保険
論集』 査読無 第192号 pp.31-48.
3. 浅井義裕 (2016) 「わが国の中小企業にお
ける生命保険需要」 『生活経済学研究』
査読有 第42巻 pp.1-15.
4. 家森信善・浅井義裕 (2016) 「自然災害
ショックと中小企業のリスクマネジメント
ー東日本大震災の経験をもとにしてー」
第7章 pp.163-189 査読無 小川光編

- 『経済ショックの波及と政策対応——グローバル化と地域の視点』 有斐閣。
5. 浅井義裕 (2017) 「日本の大学生の保険知識の水準と決定要因」 『生命保険論集』 査読無 第199号 2017年6月公開。
6. Yamori, Nobuyoshi and Yoshihiro Asai (2017) “Great East Japan Earthquake and Risk Management for Small and Medium-sized Enterprises —How Do Japanese SMEs Prepare Against Natural Disasters? -”, RIEB Discussion Paper Series DP2017, 査読無 RIEB Kobe University.
7. 浅井義裕 (2017) 「金融教育は有効なのか? - 日本の大学生を対象とした一考察 -」 『生活経済学研究』 査読有 第46巻 pp.11-24。

〔学会発表〕(計4件)

1. 浅井義裕 「中小企業金融における保険の役割」生活経済学会 全国大会 2014年6月 於 長崎大学。
2. 浅井義裕 「どのような企業が地震保険を購入しているのか?—中小企業(製造業)向けアンケートから分かること—」招待有 日本金融学会 秋季全国大会 2014年10月 於 山口大学。
2. 浅井義裕 「中小企業金融における生命保険解約の実証分析」 日本金融学会 秋季全国大会 2015年10月 於 東北大学。
3. Asai Yoshihiro (2017) “SMEs Property Liability Insurance Demand and Relationship Banking”, Western Risk and Insurance Association, Fess Parker, Double Tree by Hilton, Santa Barbara, U.S.A.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

1. 浅井義裕 (2015) 「中小企業の3割が地震保険に入れず」 『月刊金融ジャーナル』 2015年11月号 pp.35-36
2. 浅井義裕 (2015) 「大学生と金融教育 - アンケート調査に基づく金融教育の効果の計測 -」 2015年12月18日 金融・保険リテラシーと保険市場の質研究会 於 生命保険文化センター。
3. 浅井義裕 (2016) 「大学生の金融リテラシーと金融教育」 一般財団法人 ゆうちよ財団 第10回 研究助成論文報告会 2016年10月5日 於 ホテルメルパルク東京。

6. 研究組織

(1)研究代表者

浅井 義裕 (ASAI, Yoshihiro)
明治大学・商学部・准教授
研究者番号：60433645

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

姜英英 (JIANG, YingYing)
明治学院大学・経済学部・非常勤講師
研究者番号：70727057

森平爽一郎(MORIDAIRA, Souichiro)
早稲田大学・ファイナンス研究科・教授
研究者番号：50082871

家森 信善 (YAMORI, Nobuyoshi)
神戸大学・経済経営研究・教授
研究者番号：80220515

(4)研究協力者

()